

埼玉県環境基本計画の令和7年度進捗状況について

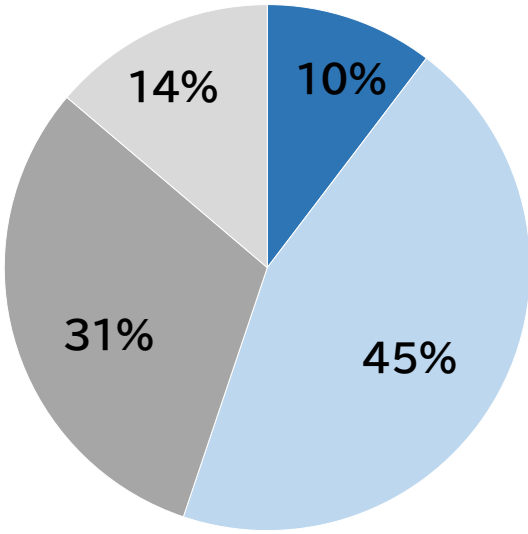
埼玉県環境基本計画の令和7年度進捗状況の報告

【施策指標の進捗状況】

埼玉県環境基本計画で掲げられている29の施策指標について、最新の進捗状況は、下記のとおりです。

評価	該当数
最終目標達成(ストック指標に限る)	3
年度目標達成	13
年度目標未達成	9
策定時より後退	4
合計	29

※最新値が令和5,6年度実績の指標を含む



- 最終目標達成(ストック指標に限る)
- 年度目標達成
- 年度目標未達成
- 策定時より後退

「年度目標未達成」及び「策定時より後退」となった13指標のうち、達成率の低かった5指標について記載。

No.	指標 [単位]	最新値 a	年度目標値 b	達成率 a/b	状況
3	一般廃棄物の再生利用率 [%]	24.0	32.2	74.5%	・最新値は年度目標に到達していない。 ・ペットボトル等の再生利用量が順調に増加している一方で、紙類等は、使用量そのものが減少していることから再生利用量も減少している。 ・再生利用量のうち紙類が占める割合は大きく、再生利用率も上昇していない。
11	森林の整備面積 [ha]	3,936	7,500	52.5%	・最新値は年度目標に到達していない。 ・市町村が環境譲与税を活用して行った森林整備は単価の高いナラ枯れ対策が多かったこと、森林整備が切捨間伐から、搬出間伐や皆伐・再造林など、単位面積あたりの労働力がより多く必要とされる施策に移行していること等から、年度目標未達成となった。
12	県産木材の供給量 [m]	87,000	112,000	77.7%	・最新値は計画策定時の値より後退している。 ・前年度実績より増となったが、木造住宅の新設着工戸数の減少による木材需要の低下を背景に、木材生産が抑制されたことにより、県産木材の供給量は目標を下回った。
15	生物多様性の認知度 [%]	59.5	73.0	81.5%	・最新値は計画策定時の値より後退している。 ・年代別認知度をみると、30歳～50歳代のいわゆる現役世代で認知度が特に低い。これらの世代は、時間的余裕が比較的少ないため、自ら赴く必要がある県のイベントや自然ふれあい施設などでの周知といったこれまでの取組では、普及啓発が十分ではなかったと考える。
19	1年間の地盤沈下量が 2cm以上の地域の面積 [m]	4,110,000	0	—	・最新値は計画策定時の値より後退している。 ・2cm以上の地盤沈下量が確認された要因については、令和8年度下半期開催予定の埼玉県地盤沈下対策調査専門委員会において専門家の意見を聞き整理する。

埼玉県環境基本計画の令和7年度進捗状況について

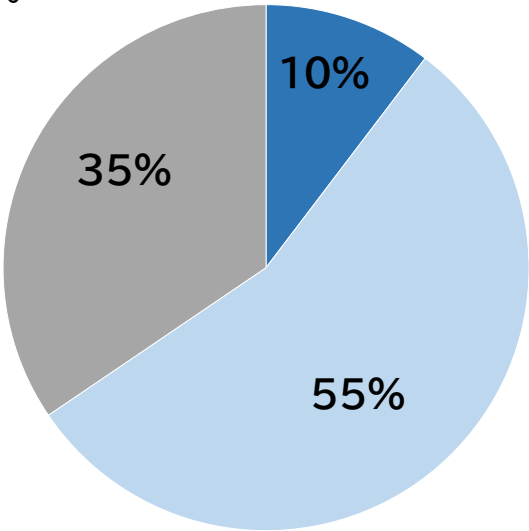
埼玉県環境基本計画の最終目標値の達成見込み

【施策指標の進捗状況】

埼玉県環境基本計画で掲げられている29の施策指標について、最終目標値の達成見込みは、下記のとおりです。

評価	該当数
最終目標達成済(ストック指標に限る)	3
最終目標値達成(見込み)	16
最終目標値未達成(見込み)	10
策定時より後退(見込み)	0
合計	29

※最新値が令和5,6年度実績の指標を含む



- 最終目標達成済(ストック指標に限る)
- 最終目標値達成(見込み)
- 最終目標値未達成(見込み)

「最終目標値未達成(見込み)」となった10指標のうち、令和7年度目標未達等を除く5指標について記載。

No.	指標 [単位]	最新値 [年度]	目標値	最終目標値の評価
1	温室効果ガスの排出量削減率 [%]	19.2 [令和5年度]	35	供給側の温室効果ガス排出量の削減が年度目標値に比べて進んでいないため、計画終期において目標の達成は困難な見込み。
4	家庭系ごみの1人1日当たりの排出量* [g/人・日]	484 [令和6年度]	428	排出量は継続して減少しているものの、これまで継続して年目標値を達成できていないことから、計画終期において目標の達成は困難な見込み。
7	産業廃棄物の最終処分量* [万t]	15.6 [令和6年度]	14.8	これまで継続して年目標値である14.8万tを達成できておらず、令和4年以降の数値もやや上昇傾向にあることから、計画終期において目標の達成は困難な見込み。
17	生活排水処理率 [%]	94.3 [令和6年度]	100.0	直近(令和元年度以降)では1年あたりの伸びが0.1~0.5ポイントであり、令和6年度末時点で94.3%であることから、計画終期において目標の達成は困難な見込み。
23	環境SDGs関連セミナーの参加企業数(累計) [社]	592 [令和7年度]	780	・広く企業に対してSDGsの取組を促すことを目的としていることから、新規の参加企業のみを集計の対象としている。 ・セミナーへの参加企業の多くがリピーターとなっており、セミナーの開催回数が減少していることから、計画終期において目標の達成は困難な見込み。

* 数字を減らす取組